

日々の授業・保育の充実に向けて 令和5年度学校訪問の総括

本資料は、幼稚園3園、小学校22校、中学校8校において実施いたしました令和5年度の学校訪問（計画訪問、表簿訪問）を総括するものです。

日々の授業・保育の改善・充実や適切な表簿管理等に向けて、ご活用ください。



目 次

- ☆ 確かな学力の育成のために …… P. 1
 - ☆ 全国学力・学習状況調査とふくしま学力調査
の結果を踏まえた取組 …… P. 5
 - ☆ 授業をつくる ～授業の設計図としての学習指導案～ …… P. 6
 - ☆ 自らの学びをマネジメント「管理」する力を育むために …… P. 7
 - ☆ 道徳科授業の充実に向けて …… P. 8
～「深い学び」を実現するために～
 - ☆ ICTを日常的に活用し、自由な発想で使えるようにしましょう …… P. 9
 - ☆ 特別支援教育の充実に向けて …… P. 10
 - ☆ 「不登校児童生徒への支援」「いじめへの早期対応」 …… P. 11
 - ☆ 幼稚園訪問を終えて …… P. 12
 - ☆ 表簿訪問 ～チェックシート～ …… P. 13
-

<はじめに>

令和5年度は、幼稚園3園、小学校22校、中学校8校の3園・30校で学校訪問や表簿訪問を実施しました。訪問した各校においては、本市の学力向上に向けた2つのPDCAサイクルである「授業5（ファイブ）」「指導5（ファイブ）」を踏まえて、日々の授業の改善に向け真摯に取り組んでいただいている様子が見られました。

本資料は、令和5年度の学校訪問を総括するものです。日々の授業・保育の改善・充実、適切な表簿管理等に向けて、ご活用いただきたいと思います。

確かな学力の育成のために

「令和5年度学校教育指導の重点」に示した「授業5（ファイブ）」の視点から、今年度の学校訪問において参観させていただいた授業について振り返ります。

（ぜひ参考にしたい内容を○で、改善が求められる内容を▲で表記します）

めあて・課題

この段階では、教師の「教えたい」「学ばせたい」を、子どもの「考えたい」「調べたい」「学びたい」につなげる工夫をし、子どもの追究意欲を引き出すことが必要です。そのためには、子どもの思いや願いと、教師の願いを基にしながら、本時のねらいが達成できるように「めあて・課題」を設定する必要があります。さらに、「めあて・課題」は焦点化されていて、どの子どもにとっても具体的に何について考えればよいのかわかるようにすることや、「この課題なら解決できそうだ」という見通しをもてるようなものにする 것도大切です。「めあて・課題」の設定が、その後の子どもたちの学びの質を左右します。学校訪問で見られた各校の取組を紹介します。



- 前時の振り返りから学びをつなげ、子どもたちが自分自身で課題を見出せるよう教師が意図的に働きかけることで、主体的に学びに向かう姿が見られる授業が増えてきた。また、タブレット内にあるアプリのアンケート機能を活用し、友達との考えの違いを可視化することで、子どもたちの解決の必要感を高めるような課題設定がなされていた。
- リーディングスキルの視点から読解力の向上に取り組む学校では、めあて・課題に「共書き」^{*1}を取り入れる授業が見られた。この取組により、集中して学習をスタートできる子どもたちの姿が見られた。
- 導入において、漢字の試し書きをさせるとともに、既習の学習内容（ひらがな、カタカナのはらい）を提示することで、漢字の右はらいの違いを児童に気付かせた。さらに、その気付きを称賛することで、「正しく書くにはどうすればよいか」という本時のめあてが強く意識され、その後の活動に効果的につながっていた。
- MetaMoJiClassRoomを用いて、前時の子どもたちの振り返りを活用しながら本時の課題を設定することで、短時間で効率的に課題を把握させることができるとともに、課題解決に向けた意欲を高めることにもつながった。
- 写真や動画を提示することで、子どもたちが「見方・考え方」を働かせながら事象と出会うよう工夫しながら課題を設定する授業が見られた。また、ICTを活用してアンケート結果や資料などを提示し、発問を通して子どもたちと道徳的な問題は何かについてやり取りすることで、本時で学ぶ道徳的価値についての方向付けを図ることができていた。
- ▲ 教師からの一方的な課題提示が多く、子どもたちが本時の学習に取り組む必要性を感じられないまま授業が進んでしまうことがあった。子どもたちから湧き出た疑問をつなぎながら、めあてや課題を設定するという教師の意識をさらに高めたい。
- ▲ 実際に問題に挑戦したり、直接実物に触れたりする活動を通して、子どもたちの素直な思いや疑問を引き出し、めあてにつなげるような教師の意識を高めることが必要である。

- ▲ 授業開始前から本時の学習課題が提示してあったり、教師が事前にカードに書いたものを唐突に提示したりする授業が依然として見られる。
- ▲ めあて・課題そのものが曖昧なため、自力解決の時間が充実しない授業が見られた。子どもたちが明確に理解できる言葉や文として示すことができるような工夫が必要である。

*1「共書き」：教師が板書する内容を読み上げ、それを板書する。同時に子どもは聞いたことをノートに書く。

自力解決

「めあて・課題」に対して子ども一人一人が解決のために追究する活動が「自力解決」です。その際重要なのが、子どもが解決までの見通しをもつことができるよう工夫をすること、考える時間を十分に確保することです。しかし、それでも、自力解決が思うように進まず、解決意欲が下がってしまう子どもが出てきてしまうことから、個に応じた支援が必要になります。各校での取組を紹介します。



- 机間指導や MetaMoJiClassRoom を活用することで、子どもたちの学びの様子を的確に見取るとともに、前向きな声掛けをするなど追究意欲を高める働きかけがなされていた。
- タブレットを活用して友達の考えをモニター（他者参照）し、自分の考えを再構成させることで、考えを深めることができていた。また、構想を練る場面で、友達の考えや意見を参考にするなど、ICT機器の有効活用が進んでいる。
- やるべきことを明確にするため、補助プリント等を活用し、全員が安心して課題解決に取り組めるような支援が見られた。
- 指導するべきことを指導後、子どもたちに活動を委ね、教師は自力解決のサポートに徹することができるよう、予想される子どもの姿を見通した授業が見られた。
- 教科書をしっかりと読み、課題解決のための手がかりになりそうな事項に線を引かせるなど、リーディングスキルの視点に立った調べ学習がなされていた。
- ▲ めあて・課題が十分に理解・把握されないまま授業が進んでしまい、子どもたちが何をすればよいのかわからず、自力解決に進めない授業が見られた。
- ▲ 教師が、自力解決の場面での目指す子どもの姿を明確にした上で机間指導を行い、困っている子どもへの適切な支援へとつなげたい。
- ▲ 自力解決の時間が十分に確保できず、子どもが見方・考え方を働かせる段階に至らないまま授業が進んでしまうことがあった。
- ▲ 調べ方などの「方法の見通し」だけでなく、答えを予測する「結果の見通し」をもたせることで、子どもたちは見通しをもって学習を進めることができる。

発表・話し合い

発表・話し合いの場面では、子どもたちの意見や考えをつなぎ、学びを深めていくためには、思考を共有・吟味するための積極的な教師の働きかけが重要です。教師は、「つなぐ・ゆさぶる・認める」などを意識した発問や問い返しを行ったり、子どもの表情やうなずき、つぶやきなどを見取り、意図的指名を行ったりするなどの働きかけが求められます。学校訪問で参観した授業では、以下のような取組が見られました。



- 教師が本時で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、問い返しをしたり、発言者以外の考えを引き出したりといったコーディネート充実させることで、友達の考えを聞きたい、自分の考えを聞いてほしいという思いを高めながら、進んで考えを交流させる子どもの姿が見られた。
- MetaMoJiClassRoomを活用して、自分の考えを整理して書いたり、考えを共有したりする場が設

定されており、一人一人が考えを深める上で有効であった。協働的な学びを促すツールとして、ICTが効果的に活用されていた。

- 本文の叙述と、資料や挿絵等を結び付けながら、文章を正しく理解できるように意識した話し合いの活動が展開される授業が多く見られた。
- 発表の場面で、子どもたちがタブレットを効果的に活用し、プレゼンテーションを行う授業が数多く見られるなど、子どもたちのICT活用のスキルの高まりが感じられた。
- 発表された子どもたちの考えや意見を、ICTを活用して表に表したり、グラフ化して示したりすることで、さらに理解を深めることにつながっていた。
- 各自がつくった旋律を自由な雰囲気の中で交流する場を設け、歌ったり鍵盤ハーモニカで演奏して互いに聴き合ったりする活動を通して、「ちがうね」「ここが同じだね」「つなげてみよう」などと、自分たちの表現のおもしろさを味わうことができていた。
- ▲ 目的が不明確なまま話し合いの活動が行われており、単にグループ内での発表会になってしまう授業が見られた。例えば「増やす」「比べる」「まとめる」など、話し合いの目的を明確にし、子どもと共有してから話し合いの活動を始める必要がある。
- ▲ 個人の考えをもてないまま、発表・話し合いに移ってしまい、話し合いの必要性や深まりが感じられない授業が見られた。その結果、取り残されてしまう子どもが出てしまった。
- ▲ 指導案には「話し合い」と位置付けられているものの、一問一答式で授業が進められることが多い。子ども一人一人が、自分自身の学びの深まりを自覚できる活動の充実が求められる。

まとめ・適用

まとめの段階では、本時の「めあて・課題」と整合した「まとめ」をすることが不可欠です。そのためには、子ども一人一人に「どのような力を身に付けさせたいか」「それは、どのような姿なのか」をより具体的にイメージすることが必要です。そして、本時の学習を通して、「何がわかったのか」「何ができるようになったのか」「どんな力が身に付いたのか」などが明らかになるよう、ねらいに沿ったまとめを行う必要があります。また、適用については、学習内容の定着を図るために、授業内に時間を確保することが必要です。各校の授業の取組を紹介します。

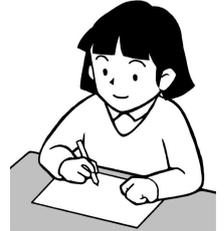
- まとめ活動の冒頭に、「今日の課題は何でしたか？」「今日は何を調べて何がわかりましたか？」など本時の授業の流れを確認することで、めあてと整合性のあるまとめをする授業が見られた。
- 板書に残されたキーワードをつなぐことで、子どもが自分の力で授業のまとめをノートに書けるような工夫がなされていた。
- 子どもが自分の言葉でまとめられるよう、めあてと主語や述語をそろえ、課題と整合性のあるまとめの文章となるような指導を積み上げる授業が見られた。
- まとめを行った後に適用問題に取り組むことで、「わかった」「できた」という実感を伴いながら学習内容を理解していく子どもの姿が見られた。
- ▲ 子どもが「自分の言葉で」まとめを書く授業が数多く見られたが、その反面、授業内容が反映されないまとめとなってしまうこともあった。要点を全体で確認したり、キーワードを板書したりするなどの工夫をするなど、方向性を示すことが必要であると感じた。
- ▲ 教材文の内容理解にとどまり、汎用的な資質・能力の育成につながらない授業があり、他のどんな場面で本時の学習が役に立つのか、教師がしっかりと子どもの姿として思い描くことが大切だと感じた。
- ▲ 依然として、「まとめ」と「振り返り」の区別がなされていない授業が見られる。それぞれの場面のねらい、目指す子どもの姿を明確にした授業構想が必要であると感じた。



振り返り

「振り返り」は、授業における気付きや学びの深まりを子どもたちに自覚させ、さらに新しい学びへとつなげるために、毎時間行うものです。まずは子どもたちが「振り返り」の意義や内容、方法を理解できるようにするとともに、振り返りの視点を提示することが必要です。「振り返り」によって、学習内容がわかったという実感を得て、教師や友達と一緒に学ぶことの楽しさを感じる時間が、授業の最後に準備されているということが大切です。各校の授業では、以下のような取組が見られました。

- 十分な時間を確保し、具体的に自分の学びを振り返ることができるよう、タイムマネジメントされた授業が増えてきた。
- 学校独自の振り返りの視点を作成し、すべての授業で共通して振り返りを行うことで、充実を図る取組が見られた。
- 本時の学び方についても振り返らせることで、話し合いや情報活用の仕方など、他教科等にもつながる振り返りがなされていた。
- 小学校低学年において、意図的に15分間の振り返りを設定し、子どもに振り返りの仕方を理解させた上で、取り組ませていた。その結果、低学年ながらもしっかりと振り返る姿が見られた。
- ▲ 授業の目標を達成するために、振り返りの場面での子どもたちの具体的な姿（どんなことを書いてほしいか、どんなことを話してほしいか）を明確にイメージし、指導案に記載することが必要である。
- ▲ 丁寧な振り返りを行う時間が確保できない授業が多かった。振り返りの場面の意義を再確認し、しっかりとタイムマネジメントすることで、振り返りの時間の充実を図ることへの意識を高めることが必要である。



今年度の学校訪問では、様々な場面において、ICT機器（タブレットや電子黒板等）を積極的に活用する実践が数多く見られました。今後も、教師自身がICT機器の効果的な活用について研修を深め、日々の授業の充実を図るための有効なツールとして効果的に活用していただければと思います。

さらに、子どもたちが安心して日々の授業に臨むためには、親和的な集団づくりが不可欠です。そこで、親和的な集団づくりの視点に照らして、今年度の学校訪問での授業を振り返ります。

親和的な集団づくりのために

親和的な集団づくりにおいて、道徳科と特別活動の充実が不可欠です。今年度の学校訪問で参観した道徳科や学級活動の授業では、以下のような親和的な集団づくりに関わる取組が見られました。

【道徳科】

- 子どもの学びを価値付けたり、学習に向かう姿勢を称賛したりしながら、親和的な集団を育もうと意図的にかかわる先生方が多く見られた。
- 充実した振り返りの場面を積み重ねることで、しっかりと自己を見つめている友達の行為や内面に込められた思いに共感する子どもの姿が見られた。
- 授業で学んだことや子どもたちのよい行いを教室内に掲示することで、学級全体に温かな雰囲気醸成されていた。

【特別活動】

- 学級活動(1)において、自発的、自治的な活動を促すために、見守ることを基本姿勢に子どもたちに関わる姿が見られた。また、子どもたちの気付きを促す助言等が効果的であった。
- 子どもたちの話し合いがうまくいかないことが予想されても、学級活動(1)の特質（自発的、自治的な実践活動）を踏まえ、活動を見守り、失敗から学ばせるという意識で子どもたちに関わる様子が見られた。

全国学力・学習状況調査とふくしま学力調査の結果を踏まえた取組

1 全国学力・学習状況調査

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から
～教科に関する調査の結果（平均正答率）※国語、算数・数学を記載～

	小学校6年生												中学校3年生											
	国語A			国語B			算数A			算数B			国語A			国語B			数学A			数学B		
	福島市	福島県	全国	福島市	福島県	全国	福島市	福島県	全国	福島市	福島県	全国	福島市	福島県	全国	福島市	福島県	全国	福島市	福島県	全国	福島市	福島県	全国
H27	72.4	71.0	70.0	65.2	65.3	65.4	73.8	74.3	75.2	42.3	42.4	45.0	76.4	75.2	75.8	65.5	64.5	65.8	63.6	61.2	64.4	40.8	38.1	41.6
H28	74.3	73.3	72.9	57.1	56.6	57.8	77.2	77.2	77.6	46.9	46.2	47.2	76.8	75.5	75.6	65.6	65.0	66.5	60.5	59.0	62.2	43.8	41.2	44.1
H29	76.8	76.1	74.8	58.1	57.0	57.5	80.9	80.5	78.6	46.7	45.1	45.9	77.9	77.6	77.4	72.6	71.9	72.2	65.3	62.8	64.6	48.0	46.8	48.1
H30	72	72	70.7	56	54	54.7	65	64	63.5	52	51	51.5	76	76	76.1	60	61	61.2	64	64	66.1	45	44	46.9
	国語						算数						国語						数学					
	福島市		福島県	全国	福島市		福島県	全国	福島市		福島県	全国	福島市		福島県	全国	福島市		福島県	全国	福島市		福島県	全国
H31 (R1)	63		64	63.8	65		65	66.6	72		72	72.8	59		57	59.8	67		65	64.6	57		55	57.2
R3	65		64	64.7	69		67	70.2	67		65	64.6	57		55	57.2	67		65	64.6	57		55	57.2
R4	65		64	65.6	62		61	63.3	68		68	69	47		47	51.4	68		68	69	47		47	51.4
R5	69		67	67.2	63		61	62.5	70		69	69.8	47		46	51	70		69	69.8	47		46	51

- 小学校6年 **【県との比較】** 国語、算数ともに上回っている。
 - 小学校6年 **【全国との比較】** 国語はやや上回っているが、算数はほぼ同じである。
 - 中学校3年 **【県との比較】** 国語、数学ともに、やや上回っている。
 - 中学校3年 **【全国との比較】** 国語はほぼ同じだが、数学は下回っている。
- ※ 平均正答率において
 差が1ポイント未満 → 「ほぼ同じ」
 差が1ポイント以上、2ポイント未満 → 「やや上回っている」「やや下回っている」
 差が2ポイント以上 → 「上回っている」「下回っている」

(2) 育てたい資質・能力

小学校6年

国語

- ① 図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
- ② 情報と情との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うこと

算数

- ① 日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる二つの数量の関係について考察すること
- ② 図形を構成する要素などに着目して図形の性質や図形の計量について考察すること

中学校3年

国語

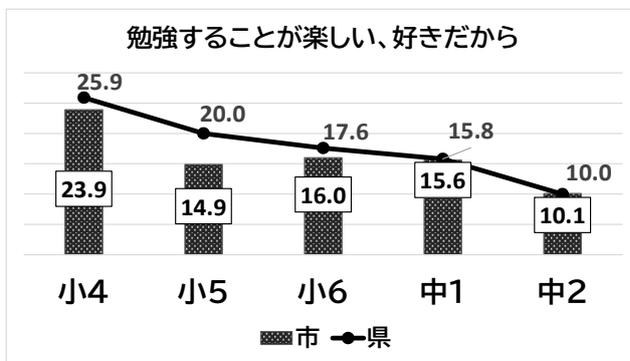
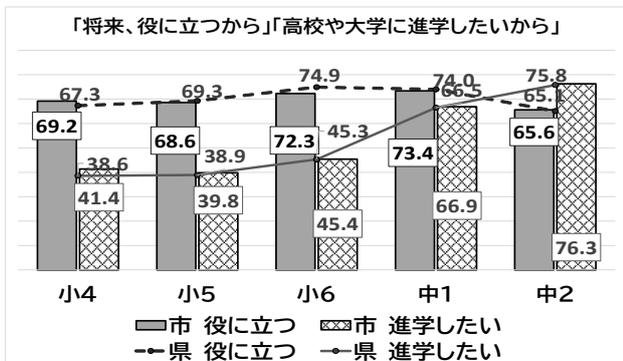
- ① 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること
- ② 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること

数学

- ① 自然数の意味を理解すること
- ② 反比例の意味を理解し、事象の特徴を的確に捉えること

2 ふくしま学力調査

児童・生徒質問紙調査（「あなたが勉強する理由は何ですか」）の結果から



勉強する理由として、回答の割合が高い項目は、「将来、役に立つから」や「高校や大学に進学したいから」でした。「高校や大学に進学したいから」については、学年が上がるにつれ、その割合が高くなる傾向が見られます。

一方、「勉強することが楽しい、好きだから」の割合は、小学4年生の25.9%が最も高く、学年が上がるにつれて、その割合は減少します。児童生徒一人一人が、わかる・できる喜びや、学が意義を十分感じられるよう、主体的な学び、協働的な学びの実現に向け、日々の授業を改善していくことが求められます。

授業をつくる～授業の設計図としての学習指導案～

学習指導案は、授業の設計図です。各学校の現職教育等により多様な形式がありますが、押さえておきたいポイントを示しましたので、各校で確認し合ひましょう。



<例> 第□学年□組 □□科学学習指導案

令和□年□月□日 (□) □校時
場所：□□室 授業者：□□□

- ～できる (知識及び技能)
- ～できる (思考力、判断力、表現力等)
- ～しようとする (学びに向かう力、人間性等)

1 単元 (題材) 名

2 単元 (題材) の目標

★子どもの学習目標で書く。

※ 評価規準を記載する場合は、各教科等の目標を踏まえて作成する。その際、「主体的に学習に取り組む態度」の観点から、評価を通じて見取る部分を整理し、示す必要がある。

3 単元 (題材) について

(1) 単元 (題材) の特徴 (教材観)

本単元 (題材) は、□□□□

(2) 子どもの姿 (児童観 / 生徒観)

本学級の子どもたちは、□□

(3) 単元構想・授業構想 (指導観)

本単元 (題材) の指導にあたっては、□□

本時の指導にあたっては、□□□□

4 指導計画 (総時数□時間)

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

(2) 板書案

(3) 指導過程 / 本時の展開

本単元を学ぶ意義や価値、特に重視する見方・考え方や、児童・生徒がつまずきやすいポイント等について明記する。

本単元<題材>の構想につながる児童・生徒観 (教材<題材>を窓として見たときの子どもの実態等) について明記する。

どのような手立てを講じていくのかについて、(1) 教材観、(2) 児童観 / 生徒観とのつながりがわかるように明記する。

- ① (学習内容) ～について、
- ② (学習活動) ～することにより、～を通して
- ③ (目指す子どもの姿) ～することができる。

	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ◇手立て ●評価
課題設定	1 本時の学習課題をとらえる。 (1) 前時の～ (2) 本時のめあて (課題) をとらえる。 めあて (課題) ●●は、どうして○○なのだろうか?	5	○ ～するために、～する。 子どもが「解決したい!」と、必要感をもって探究するめあてになっているか吟味する。(書き方は疑問形になることが望ましい) また、子どもの問いを引き出す手立てについて、「指導上の留意点」「手立て」に必ず明記する。
	2 自力解決をする。 (1) 予想される子どものつまずきや誤答に対する手立てについても明記する。 例:「～といったつまずきが予想されるため、」		◇ 「何のためにその手立てを講じるのか」が伝わるように、教師の手立てと、その結果として期待する子どもの姿がセットになるように明記する。 例:「～するために、～する。」 「～することで、～できるようにする。」 ※「理解させる」等の使役表現は避ける。
	3 ○○について話し合う。 (1) 互いの考えを発表し合う。 (2) 話し合い、本時の課題を解決する。		● ～している。(発表、ノート、タブレット)
振り返り	4 本時のまとめをする。 まとめ ●●は～		子どもがめあて (課題) を追究して導いた「解」として適切か、「評価」とも整合しているか吟味する。
	5 振り返りをする。		各教科・領域の特質に応じた、具体的な振り返りのための手立てについて明記する。 例:「○○日記を書く」「キーワード解説文に取り組む」等

自らの学びをマネジメント「管理」する力を育むために

～「家庭学習のスタンダード（福島市版）」の活用を図る～

本市で目指す子どもの姿は

計画的に家庭学習に取り組む \rightarrow 中学校3年生54%^(※)以上

※ 全国学力・学習状況調査による「計画的に家庭学習に取り組んでいる生徒の割合」から、家庭での学習習慣の定着をはかる指標（令和7年度目標値）

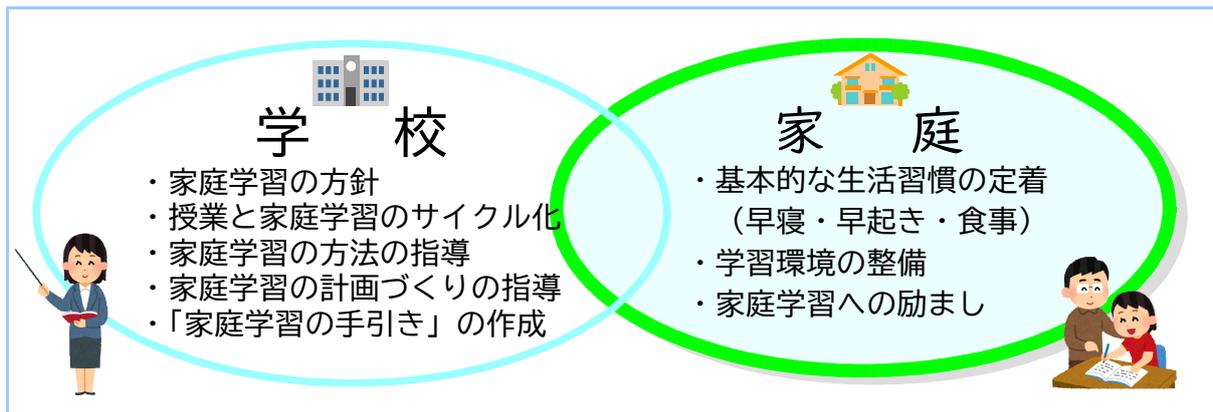


◆ 「家庭学習5（ファイブ）」を心がけて指導しましょう。

- 1 家庭学習は系統的・計画的な指導により、自らの学びをマネジメントする資質・能力を育むものと共通理解する
- 2 家庭学習は学校（中学校区）全体で組織的に指導する
- 3 家庭学習は「宿題＋自主学习」である
- 4 家庭学習は「量」と「質」を重視する
- 5 家庭学習は学校と家庭が連携してこそ効果が上がる

◆ 家庭学習における学校と家庭の役割を明確にしましょう。

「家庭学習のスタンダード（福島市版）」における学校と家庭の役割



※ 「家庭学習スタンダード（福島市版）」及び「同保護者用リーフレット」は、白パソの全校共有フォルダの資料室及び福島市ポータルサイトにデータをアップしておりますので、積極的な活用をお願いします。

令和6年度の重点

<「令和6年度学校教育指導の重点」より>

1 「授業とつながる」家庭学習の習慣づくりを行います。

学校において、教師が学校での授業内容と児童生徒が各家庭で取り組む学習内容の関連性や連続性を意識して指導することにより、授業と家庭学習が連動した望ましい学習サイクルを形成することが大切です。

2 「中学校区全体」で共通理解を図りながら家庭学習を推進します。

中学校区における幼・保・小・中学校及び保護者と共通理解を図りながら、「家庭学習の手引き」の自校化を図るなど、共通実践を心がけましょう。

3 「児童生徒1人1台タブレット端末」の活用を図ります。

家庭学習において、児童生徒が1人1台タブレット端末を積極的に活用することができるよう、家庭へのタブレットの持ち帰りを積極的に進めましょう。

道徳科授業の充実に向けて ～「深い学び」を実現するために～

深い学びのある道徳科の授業を実現するためには、子どもが気づき、発見した道徳的価値の深い理解を基に、「自己を見つめる」ことが大切です。

「自己を見つめる」ということについて、授業の実際を基に考えてみましょう。

中学校1年生

主題名 自律して生きるためには
教材名 「裏庭の出来事」(光村図書)

※「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」から一部抜粋

内容項目【A 自主、自律、自由と責任】

どのような小さな行為でも、自分で考え、自分の意志で決定したものであるとの自覚に至れば、人間はその行為に対して責任をもつようになる。そこに、道徳的自覚に支えられた自律的な生き方が生まれ、自らの責任によって生きる自信が育ち、一個人間としての誇りがもてるようになるのである。

「自己を見つめる」時間の確保

道徳的価値のよさや大切さを単に知識として理解させることにとどめることなく、自分との関わりの中で実感を伴って理解するために、「自己を見つめる」「自己(人間として)の生き方についての考えを深める」時間を確保することが不可欠です。



【授業の実際】

展開前段では、中心発問として、「自分の過ちを先生に正直に言いに行くと決めた主人公の心の中にはどんな思いがあったか」と問い、他の人を気にしたり、引っ張られたりするという人間の弱さに気付かせると同時に、自らが正しいと信じることを実行できたとき、充実感や喜びが生まれ、自分に対する自信や誇りが生まれることにも気付かせます。

展開後段では、自分の生活に置き換え、価値について考える場を設定し、前段で子どもが気付いたことと自分を照らし合わせて考える「自己を見つめる」時間を確保します。

また、「主人公」のように、人間の弱さに対峙し、葛藤しながらも乗り越えようとする人間としての強さについて、子ども自身がこれからの課題や目標を見付けられるようにします。

「自己を見つめる」

T：今まで、正しいと思うことを人に流されず、自分で決めてきましたか？

C：僕はいつも周りを気にしてばかりで、人に流されていたな。

C：わたしは自分で決めているけど、〇〇さんとなると、自分の気持ちをうまく言えず、後悔してしまうわ。

※ 「多様な場面でその行為や行動ができていたか？ できていなかったか？」「その時どんなことを感じ、どんなことを考えたか？」等について考えさせる。



「自己(人間として)の生き方についての考えを深める」

T：自律した生き方とはどのような生き方かな？

C：わたしは、自分の考えをはっきり言わないから、友達もそれでいいと思ってしまうのかな。こんな自分を卒業したいな。

C：誰といてもどんな時でも自分で決められる人になりたいけど…。

※ 自分が伸ばしたいところや課題、それらを自己(人間として)の生き方としてどのように実現していくかについての思いや願いについて考えさせる。



子どもが、これまでの自分の経験を思い出すことが難しい場合、次のような手立てが考えられます。

- 1 教師が、学校行事等の共通体験の具体的な場面を提示する(写真等とともに)
- 2 意図的指名を行い、日頃の生活で見取った児童生徒の行動について尋ねる 等

弱い自分、不十分な自分を見つめることができると、よりよい在り方・生き方を思い描くことにつながります。弱い自分、不十分な自分を見つめている児童生徒の姿を見取り、認め励まし合える児童生徒と教師、児童生徒同士の関係づくりがとても大切です。

※ 見つめた自分を発表させる場合は、発表できる学級の雰囲気や整っているかを確認したり、本人の了承を得たりするなど、十分な配慮が必要です。

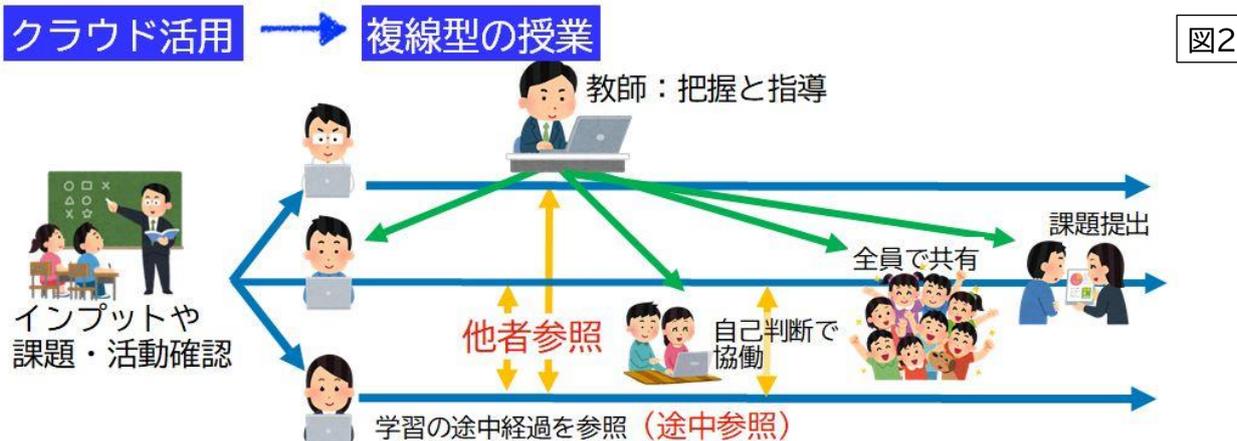
子ども一人一人を大切にする授業のためのICTの活用

タブレットを活用した子ども主体の授業改善に向けて

図1のように従来の授業にタブレット端末を取り入れた授業の場合、「考えてみましょう」「調べてみましょう」「発表してみましょう」というように教師の指示が多くなる傾向があります。また、これまでの授業は黒板や紙の教科書やノートに最適化された授業のスタイルなので、このスタイルにタブレット端末を入れても十分に効果を感じられないかもしれません。



しかし、図2のような複線型の授業ではクラウド環境と1人1台端末が大きな力を発揮します。



【複線型の授業の例】

一斉での確認が終わった後、授業で活用するデータ（白紙の状態でもかわまない）を共有し、そこに、子どもたちが本時の目標やねらい、学ぶ手順、方法などを入力して、各自のペースで学習を進めていきます。中には一人だけで学習を進めることがなかなか難しい子どももいます。そのような時には、クラウド上で共有されているデータから、友達の進捗を参考にして学びを進めたり、友達へ直接聞きに行ったりして、自分なりの考えをまとめていきます。

子どもたち一人一人が別々の興味・関心をもっていることを踏まえれば、これからは、クラウドや1人1台端末を活用した新しい授業を考えていく必要があります。ぜひ、子どもそれぞれが学びのかたちをつくっていく複線型の授業を単元の一部で行っていきましょう。

子どもたちの主体的な活動が増えるからこそ、情報モラルや情報セキュリティ、タブレット端末等の健康への影響についても考えさせましょう

- 各教科等でのICTの様々な活用場面を通して、著作権や人権侵害、個人情報、パスワードの管理、使用時の姿勢や使用時間などについて、一般的に「良いか悪いか」ではなく、安全な範囲や影響などについて考えさせましょう。
- 「～してはいけない」という禁止事項などの知識を身に付けるだけでなく、「なぜ～してはいけないのか」を子ども自身で十分に考え、適切に判断し行動できるようにしていきましょう。

特別支援教育の充実に向けて

特別支援学級に在籍している児童生徒や通級指導を受けている児童生徒については、学習上や生活上の課題や困難さ、得意なことなどについて把握し、一人一人の実態に応じた指導を行っていくことが大切です。

個別の教育支援計画の作成から、自立活動の実際の指導までの流れについて、考えてみましょう。



1 個別の教育支援計画の作成について

個別の教育支援計画(例) (作成日 令和〇年〇月〇日)

氏名 福島 太郎	学年 5	生年月日	作成者 (担任) ○○
障がい等の状態 学習上・生活上の困難さ	集中の持続が困難。思いどおりにならないと乱暴な言動になることがある。漢字を覚えることが苦手。(読みはOK)		
障がい名・疾患名	ADHD 自閉スペクトラム症		
本人の思い (学校生活での希望、進学先、将来について等)	友達と楽しく学校生活を送りたい。テストでもう少し点数を取りたい。授業中、分からないことがあると、みんなが手伝ってくれるが、自分の力ががんばりたい。高校に進学して、将来は消防士になりたい。		
保護者の願い (本人の将来の姿等)	仕事に就いて、自立した大人になってほしい。思いどおりにならない時でも、暴れないで対処できるようになってほしい。		
本人の良さ・興味関心・遊び・強み等	昆虫が好き。絵が上手。運動も得意。嫌なことがあっても、気持ちを切り替えて、友達と仲良くすることができる。		

(支援目標設定の理由)

漢字を書くことの苦手さや不注意による失敗等の経験から自己肯定感が低下し、学習の取組も消極的である。本人・保護者の思いを踏まえると、学習の定着が必要である。そのためには、本人の困難さを軽減するための支援や、精神的に不安定になった時の支援が必要である。本人のできることが増えることで、気持ちを安定させて学校生活を送ることができると考えている。

支援目標 (○支援 ○指導)

◎書きの負担を軽減する ◎集中しやすい環境づくり ◎精神的に不安定になった時の支援
○漢字以外の記録できる技術の獲得・低学年程度の読み書きの定着 ○イラストしたページでの対応

各連携機関の支援内容等	
機関名	支援内容
〇〇クラブ (学童)	・ 宿題の見守り ・ 精神的に不安定になった時に、リラックスできるスペースを設ける。
〇〇病院	・ 薬の効果や服薬の決まりを伝える。 ・ 本人にとって必要な配慮事項について相談。

支援内容・方法 (個別に必要とする合理的配慮等)	支援の評価
<p>【教育内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本人への板書の量を調整し、授業後、タブレットで板書を撮影、ファイル化し、学習を保証する。 国語単元テストに関しては、別室で、口頭による代替筆記によるテストを可とする(本人申し出による)。 困難さを克服する指導として、自立活動の時間に指導を行う。 <p>【支援体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会の交流学習の際は、協力員・支援員についてもらい、ノートを書く際に支援をしてもらう。 担任やSCと定期的に個別面談を行う。 <p>【施設設備 (学校、教室等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不安定になった時のクールダウンスペースを設ける。 注意がそれやすいことから、座席位置、掲示物等に配慮する。 	

本人の学習上・生活上の課題や困難さを記入します。

児童生徒の、学校生活での希望や将来の願いについて記入します。

保護者の思いや願いを記入します。

本人や保護者の思い、児童生徒の実態から、どんな支援が必要かを記述します。

医療や福祉などの関係機関との連携について記入します。

保護者から必要な支援について申し出があった場合には、校内で協議し記入します。

進学などの際には、保護者の同意のもと引継ぎます。

上記の内容を確認しました。

令和〇年〇月〇日 児童生徒名 _____
保護者名 _____

参考「コーディネートハンドブック」2020版
(福島県特別支援教育センター)

保護者に、支援の目標や内容等について説明し、同意を得るようにします。

2 指導目標の設定と自立活動の指導について

<児童の実態>

集中が続かない。漢字を書くことが難しい。

<自立活動の目標>

思い通りにならなくても、落ち着いて学習に取り組むことができる。

<自立活動の指導例>

「漢字神経衰弱ゲーム」
・ 「へん」と「つくり」の合うカードを選ぶ。

「タブレットで作文にチャレンジ」
・ 音声入力で、短文を作る。

「こんな時どうする」
・ 失敗した時の対応について、ロールプレイする。



個別の教育支援計画をもとに個別の指導計画を作成し、実態に応じた指導内容を考えることが大切です。

「不登校児童生徒への支援」「いじめへの早期対応」

< 不登校児童生徒への支援 >

不登校で苦しんでいる児童生徒への支援の第一歩は、将来の社会的自立に向けて、現在の生活の中で、「傷ついた自己肯定感を回復する」、「コミュニケーション力やソーシャルスキルを身に付ける」、「人に上手にSOSを出せる」ようになることを身近で支えることです。

児童生徒に求められる自立の姿は多様ですので、形だけを整えるのではなく、個に応じた社会的自立に向けて目標の幅を広げた支援を行うため、下記の点に留意して支援していただくことが大切です。

○ 親和的な学級・学校づくり

児童生徒一人一人を「ほめる」、「認める」などして、個に寄り添いながら集団への所属感や自己有用感を育てていくとともに、学校が児童生徒にとって大切に意味のある場になっていると実感できる学級づくりを目指すことが求められます。

○ 個別最適な学びを実現できる指導の工夫

どの児童生徒にとっても「わかる」「できる」「面白い」授業を心がけることが大切です。

○ 各校における別室登校生徒への対応例（生徒支援教員配置校の実践例）

- ・ 別室登校の生徒に組織的に対応するため、担当教員を校務分掌に位置付けた。
- ・ 生徒支援教員が、生徒の悩み等について話を聞き共感的に受け止めることで、生徒は、自分にとって自分を理解してくれる存在と考えるようになり、別室に通うことができるようになった。
- ・ 小集団での活動を取り入れることにより、集団になじめない生徒に、集団で取り組むよさや大切さを学ばせた。
- ・ 別室の中で毎日、オンライン学習を実施することにより、生徒は別室で授業を受けることができるようになった。

< いじめへの対応 >

各校においては、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に積極的に取り組んでいただいているところですが、再度下記の点を確認し、適切な対応をお願いします。

○ 日頃の児童生徒観察及び情報交換

いじめを受けている児童生徒には、何らかの変化が見られます。些細な変化を見逃さないためにも、日ごろから児童生徒の観察及び教職員間での情報交換に努めていくことが重要です。

※ 教師の主観的な思い込みによる指導は、危険です。問題を客観的に見ることがいじめを見逃さないポイントです。

○ いじめに関する法律等の理解

「福島市いじめ防止等に関する条例」の改正、「福島市いじめ防止基本方針」の改定が行われました。「いじめ防止対策推進法」と合わせて、教職員による定期的な確認が必要です。

○ 各校におけるいじめの早期発見・早期対応例

- ・ 改正した自校の「いじめ防止基本方針」を全職員で確認している。（定期的に数回実施）
- ・ 教員向けの「いじめ対応マニュアル」を作成している。
- ・ いじめ早期発見のためのチェックポイントを作成している。
- ・ いじめの疑いがある申し出があった場合には、すぐに管理職へ報告している。
- ・ いじめの疑いがある申し出があった場合に、すぐに自校のいじめ対策組織を編制し、聞き取り等の計画やいじめの認知等を行っている。

重要 ◇ 学校の「いじめ対策組織」がいじめ対応に向け、極めて重要な存在であることを忘れないでください。

◇ いじめに係る情報が教職員に寄せられた場合には、教職員は、他の業務に優先しかつ、即日、その情報を速やかに管理職に報告しなければなりません。

幼稚園訪問を終えて



<一人一人を受け止める温かな学級づくり>

- ◇ 各園が、温かな学級づくりをめざして、教職員の連携を図りながら、一人一人に寄り添った保育をしています。学級づくりがすべての基盤となることを踏まえ、個々の存在を大切にされた保育を学級全体の育ちにつなげることを意識し、育ち合える学級経営を工夫していきましょう。

特に、特別な配慮を必要とする幼児が在籍している学級の個と集団の育ちについては、職員間での共通理解を図り、園全体で対応していくことが大切です。

温かな関係づくりにつながる幼児への意識的な働きかけ

幼児自身が話し合う必要性を感じていることが大切です。

幼児と共につくる園生活 行事や活動の内容を幼児と話し合ったり、学級のきまりを見直したりする機会をもち、幼児の声を生かしながら園生活をつくっていく。

個と集団のつながり 幼児が互いのよさや頑張りを感じ取れる機会をつくり、一人一人の存在意義を深めることで、学級の一員であることを意識できるようにする。

共感的な関わり まずは幼児の様々な思いを共感的に受け止める。状況に応じて幼児、または友達と一緒に振り返ったり、「今度はこうしよう」と前向きに考えたりすることができるように働きかける。

(例:「〇〇さんは△△したかったんだよね。そんなときは、どうしたらいいんだろうね。」)

幼児のモデルとなる、教師の幼児理解の在り方や幼児へ対する言動が、学級の人間関係に大きく影響します。

<幼児の育ちを促す「話し合い」の工夫>

- ◇ 各園で遊びや活動の中で幼児同士が話し合う状況が生まれるような保育の工夫が見られました。話し合いをすることで自分では気付かなかったことに気付いたり、考えもしなかったことにま

で着目したりして、考えを深め共有することで遊びが豊かになります。

その援助のポイントをご紹介します。

- ・ 幼児の遊びや生活の中から、幼児自身が必要感や意欲をもって話し合うことができるような課題や内容を選定したり、話し合いが生まれる状況ができるようにしたりする。
- ・ 幼児の言動から読み取った新たな視点に気付かせたり、多様な考えをつないだりする働きかけをする。
- ・ 教師が結論に向けて話し合いを誘導することがないようにする。話し合いの結論を急がず、幼児自身がいろいろな考えを試したり、調べたりしながら納得して結論を出すことができるように活動時間を保障するとともに、幼児の活動を見守るようにする。

<少人数学級における保育の工夫>

- ◇ 少人数のよさを生かした保育の工夫が見られました。
 - ・ 好きな遊びでは、年齢に応じた用具を用意しますが、使用を制限するのではなく、年長児に使い方を教えてもらいながらかかわって遊べるように工夫されていました。
 - ・ 一人一人の幼児の育ちを職員全員が共有し、個に応じた関わりが見られました。そのために、保育記録を全職員で読み合う、週に一度保育について話し合う機会をもつ等の工夫がなされていました。
 - ・ 機動性を生かし、積極的に園外活動を行い、直接的な体験を通して発達に必要な経験を積み重ねることができるよう、指導計画の工夫がなされていました。



表簿訪問 ～チェックシート～

≪参考≫「全校共有フォルダ」の「資料室」の中に、参考資料があります。

- I 指導要録 011 指導要録関係書式>指導要録電子化マニュアル(令和3年度～)> 02 指導要録電子化マニュアル 等
 ※指導要録の記入については、福島県教育委員会発行の「指導要録記入の手引き」(令和2年3月)を参照
- II 出席簿 034 出席簿
- IV 健康診断票 養護教諭部会>04 健康診断関係>デジタル校務を使用した健康診断票作成マニュアル

表簿	番号	確認内容	確認済	要訂正
I 指導要録	1 全体	転学、転入学の月日記載は、出席簿、除籍簿及び学校日誌と整合させる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2 全体	児童生徒の氏名は、一覧表も含め正式名を記載する。PC上にはない文字は手書きとする。外国籍の児童生徒については一覧表の備考欄に通称を記入する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3 全体	仮用紙を処分する際は、管理職立会いの下、シュレッダーで確実にかつ速やかに廃棄する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3 一覧表	転・編入学、記入事項の変更による訂正及び抹消は、その都度一覧表 Excel データを修正、保存し、「仮用紙」に印刷して綴る。また、備考欄に、転学先、転入学前の学校名や姓の変更について記載する。変更前の仮用紙はシュレッダーで廃棄する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	4 学籍	途中の学年から特別支援学級に入級した場合、通常の学級における教育の期間等を「入学前の経歴」(スペースがない場合は「入学・編入学等」)の欄に記載する。(逆の場合も同様)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	5 学籍	転学、転入学の理由は、個票と氏名一覧表で整合性を図る。また、住民票を異動しているのかも確認する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	6 学籍	年度途中で担任が変わった場合は、氏名の下に担任した期間「○月～○月」を記入し、当該年度未担任のみが押印する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	7 指導	学習指導要領に対応した様式を使用する。また、観点別学習状況のABC評価と評定が整合するように学校で統一した基準をもつ。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	8 指導	行動の記録、特別活動の記録の「○」についても、学校内で共通理解を図り、個人や学年間で異なるようにする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 指導	長期欠席児童生徒の評定及び総合所見については、福島県教育委員会「指導要録記入の手引き(P80)」を参照し、可能な限り記載する。また、評価・評定欄は空白としない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
II 出席簿	1	欠席、出席停止、遅参・早退についてリストにない場合は、その他ではなく、手入力で記入する。また、忌引き、通院の理由の記載は、例「忌引き(祖父葬儀)」、「通院(内科)」に統一する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2	学期毎に「学期別出欠統計表」を印刷し、綴じる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	(幼稚園)出席を空欄とする場合は、年度初めにその旨を園で作成する「記入上の注意と整理の仕方」の頁等に記載する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	4	(幼稚園)転退園の場合、除籍日の翌日以降の欄に横線を引く。氏名一覧表は、二重線を引く。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	5	(幼稚園)早退、遅参の理由は、まとめて記入せず、1日ごとに記入する。理由の表現を園内で統一する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
III 指導計画 週案 月案	1	学習内容の記入については、校内で表記を統一し、適正な時数管理に努める。また、年間計画で進度が把握できるようにする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2	教科等に変更があった場合、朱書き矢印等で訂正し、計画変更の記録を残すなど、適切な内容管理に努める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	教科・道徳科・学級活動等の指導の内容記載を確実にを行い、実施した記録として残す。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
IV 健康診断票	1	「異常なし」は斜線、法により省略できる項目は「・」、未検査項目がある場合は、「未検査(未受診)」とする。備考欄も含めて、空欄にはしない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>